

広報小委員会ミーティング（以下、敬称略）

- 出席(敬称略): 荒木, 沖, 加藤, 川崎, 木原, 武若, 森, 山田, 岡安
磯部委員長, 佐藤幹事長
- 議事メモ作成者: 木原
- 議題

0. メンバー紹介

	*新メンバー	タスク (案)
武若 聡 (筑波大学)	小委員長	全体とりまとめ
森 信人 (京都大学)	副委員長	全体とりまとめ サーバ管理
荒木進歩 (大阪大学)	委員	海岸災害情報 数値波動小委員会連絡役
沖 和哉 (京都大学)	委員*	
加藤 茂 (豊橋技術科学大学)	委員	サーバ管理 (副) 沿岸連携小委員会連絡役
川崎浩司 (名古屋大学)	委員	編集小委員会連絡役
木原直人 (電力中央研究所)	委員	海岸工学 DB
山田浩次 (国土技術政策総合研究所)	委員*	海岸災害情報
岡安章夫 (東京海洋大学)	アドバイザー	

1. 海岸工学委員会ウェブのメンテナンス

a. ウェブの維持管理について

ルーチンワーク + 創造的案件 (課題を見つけるところから)
海岸工学講演会・論文集に強い関心を持っている人への情報提供 → 確立された
海岸工学について知りたい人への情報提供 → これからの課題

b. サーバ管理について (森, パワーポイント資料)

- ・津波被害推定小委員会との連絡係を探す.
- ・今後の web 管理者・管理方法について武若と森が検討する.
(例えば管理者をローテーションでまわす, 等)

c. アーカイブ資料の格納場所

委員会サーバ, 土木学会サーバ
ユーザ, パスワードの管理

- ・現状では, 土木学会のサーバにアーカイブ資料を入れているが, 今後は coastal.jp
へ移行するべきか?
- ・学会の管理体制が頻繁に変更されるため, 情報が長期間引き継がれていない. そ
のため, 移行した方がいいのではないか(佐藤幹事長)

・移行するかどうかを武若と森が決定する。

2. 海岸工学論文集 DB 移設

a. 最新の状況: データ、プログラムは委員会サーバに移設済み
プログラムの調整が必要

・小林により、海岸工学論文集 DB が coastal.jp へ移設された。

b. 土木学会図書館オンライン情報の追加 (木原)

・海岸工学論文集 DB を管理し、土木学会図書館オンライン情報を追加する。(担当: 木原)

3. 海岸災害情報の収集

a. 武若メモ

- A 海岸工学に関わる技術者、研究者の撮ってきた写真の収集必ずしも、災害のシーンではない
先日紹介した豊島先生のスライド集(国総研で整理)
榎木先生の写真(サンプルを荒木先生が保管中)
他の方から、撮りためた写真を提供したいとの相談あり(高山先生)
- ・相談役を務めて下さっている先生方から写真や資料を 10 枚ずつ持参してもらってはどうか?
 - ・来年度の海岸工学講演会の開会式で、相談役の先生に 10 枚程度の資料を紹介して頂く(佐藤幹事長)。
 - ・広報小委員会のメンバーは、先輩方から 10 枚程度の写真を集める。武若が号令をかける。
- B 海岸工学論文集からの文献抄録、特定のイベント毎にとりまとめる
- C 海岸災害の収集【過去のイベント】
- ・富山高波災害の関連資料を収集できるか、山田が確認する。
- D 海岸災害の収集【これから発生するイベント】
- 災害のメカニズム解明、災害対策のための委員会の資料・議論を収集する。最近、インターネットに公開されていることが多い。
海岸工学委員長が委員会主催者(国、県など)に資料提供を依頼する
継続的に実施するのはしんどそう
- E リバーフロント整備センターとの連携の可能性検討
- ・リバーフロント整備センターの海岸情報ステーションと連携を取りたい。
- F 情報を収集する具体的な仕掛け
- 情報を提供する/したい人がアップロードできるシステムはあるか?
- ・リバーフロント整備センターでは、投稿ボードを設けている。投稿ボードの設定方法について大崎さんに確認する。
 - ・google Picasa2 のように、投稿したい人がアップロードでき、coastal.jp に設置できるアプリケーションを検討する。(担当: 沖)

海岸工学委員会に担当者を設け、情報を収集整理する

b. 情報提供: 既存データベースの例 (森)

自然災害データベース「SAIGAI」 <http://maple.dpri.kyoto-u.ac.jp/saigai/index.html>

研究室の過去の調査一覧 <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~kaigan/ja/index.php?Research%2FSurvey>

【参考, 1年前の議論】

有川さん 国総研の港湾施設研究室に連絡を入れてみました。

港湾の外郭施設や係留施設に関しては、毎年、直轄のものに関して、各地方整備局から断面や写真や状況を集めているようです。海岸施設に関しては、しばらく前までは行っていたようですが、不要ということで破棄したようです。

どこまでを委員会マターとして行って、連携などをどうするのかなどの問題がありそうですが、うまくライブラリ化できるとよいのではないかと思います。大変そうですが。

森さん 全体の画像等の量, 集め方, 更新の頻度でいろいろなプランが考えられますね。例えば,

1. トップダウン方式: 津波の画像集のようにきっちり作る。

科研等の資金のバックアップを得て, 体系的に画像を集める。

2. ボトムアップ方式: Wiki, 掲示板等を使い, 有機的に作成

武若 海岸に関わる技術者・研究者が残している海岸災害に関する写真・メモなどは膨大な量があるはずで、これを死蔵するのはもったいない。これらを簡単にアーカイブする仕組みを作れないか
研究につながる活動にできないか

立ち上げ時のイニシャルデータの用意。例えば、海岸工学スライド集のスキャン（著作権上の問題はるか？）

データの更新, 追加にどれだけの協力を頂けるか

被災事例に誰がコメントをつけるのか。例えば、○×の理由により被災した、という説明は必要か？ 海岸工学論文集に発表された事例を中心に収集する？

津波被災アーカイブを参考例に示しているが、津波の発生頻度が小さいので、高密度な情報収集が可能なのではないか